

モデル事業名	人と地域資源を活かす“住んで元気、訪れて元気”の山里づくり事業
活動団体名	特定非営利活動法人三遠南信アミ
ホームページ	<a href="http://www.rue-ami.com/">http://www.rue-ami.com/</a>
所属/ 担当者名	理事 三宅淳子
連絡先	電話番号：053（462）5273 Eメール：wellplan@uv.tnc.ne.jp
活動地域	長野県下伊那郡売木村

### ● 活動地域の概要

長野県の最南端に位置し、標高1,000m級の山々に囲まれた山村で、天竜川支流・売木川沿いの小盆地に集落が分布。中心集落の標高は約800m。290世帯、人口666人（平成21年2月現在）、総面積に占める森林率88%。人口減少・少子高齢化が進んでおり（高齢化率45,2%）、遊休農地の増加、集落活動の低迷、観光交流人口の減少が続いている。公共交通は、信南交通（株）（飯田市本社）運営バスの売木～泰阜村温田間の4往復のみ。



農産物直売所「うるぎふるさと館」  
（食事コーナーは休業中）



遊休農地解消のための景観作物  
の植栽（取組みは低迷している）

【位置図】

### ● 活動地域の課題

- ①持続可能な地域コミュニティ創生に向けて、住民はもとより、地域外の活動主体とも情報共有や相互連携を深めながら、地域風土に育まれた地域資源・文化の魅力の再発見・気づきを促して、地域への愛着と誇りを醸成しつつ協働による“住みよい、訪れよい”山里づくりに取り組む。
- ②協働による地域資源を「守り育み・活かし伝える」取組みや、付加価値のある商品づくり（農産物の加工、体験交流プログラム）をとおして村の活力を生み出し、都市農村交流活動を推進して地域の活性化を図る。

### ● 活動の内容

#### ・平成20年度

- ①事業推進の体制づくり、地域資源の見直しと“みがきあげ”の取組み  
村内の住民・NPO・商工会・観光協会等と村外のNPO・関係事業者等とで事業推進組織「売木村まるごと元気推進会議」を立ち上げ、地域資源の見直しと活用策を検討し、新たな商品づくり・試行販売を行う。
- ②自転車利用による新たな都市農村交流の創出  
村の豊かな自然環境の保全とともに、健全なライフスタイルを促す自転車利用を取り入れた山里体験プログラムを実践する。
- ③情報発信の活発化  
売木村ふる里カレンダー（地元写真クラブの写真利用）の製作・配布（全戸及び地域外の観光関連施設など）、自転車雑誌や浜松市内での写真展示等とおして村の情報・魅力を発信する。

#### ・平成21年度

- ①地域資源のさらなる“みがきあげ”活動の推進  
昨年度に続いて新たな資源活用の商品づくりに取り組み、試行販売を行う。
- ②自転車利用の環境づくり
  - ・飯田鉄道利用の輪行（列車内に自転車を折りたたんで持ち込み、目的地で組立ててツーリングを楽しむ）や、昨年度作成したサイクリングマップを利用してイベントを実施し、広域交流を促す。
  - ・自転車の快適な利用を促す美しい景観づくり（しだれ桜の保全や花木などの植栽）を実施する。
- ③売木村や山里暮らしの魅力を伝える「うるぎふる里カレンダー」や「情報誌」の作成  
村の残したい・伝えたい宝物（地域資源）、山里遊び・山里暮らしの魅力や楽しさを紹介するツールを作成する。

## ● 活動の成果

### ・平成20年度

- ①「ふるさと再発見」による愛着・誇りの醸成、地域づくりへの参加と活動の機運向上
  - ・地域の魅力を「よそ者」の視点も加えて見直すことにより、多くの気づきと地元への愛着・誇りを促すことができた。
  - ・多様な主体による協議・企画・実践をとおして、協働の地域づくりへの参加意欲が高まった。
- ②地域資源を活かした付加価値のある商品づくり  
地域の気候風土に生まれ・伝えられてきた食農の知恵と技術を活かした付加価値のある新たな商品づくり（天日干し野菜）を行い、販売までに至った。
- ③コミュニティ活動の活発化  
村恒例の都市農村交流イベント「秋色感謝祭・新米まつり」に加え、地域外の活動主体との協同による新たな“コトづくり”「春色感謝祭」（交流イベント）を行った。
- ④「地域づくりネットワーク形成」の機会の創出  
地域外のNPOや自転車愛好家・グループとの協同活動をとおして、今後の“住んでよし（元気）、訪れてよし（元気）”の山里づくりに向けて、「地域づくりネットワーク形成」の機会を生み出すことができた。

### ・平成21年度

- ①高原のラベンダーを活用した新たな商品づくり、ラベンダー摘み取り体験会の実施  
うるぎ星の森オートキャンプ場内の未利用のままのラベンダーに着目し、ハーブクラフトの製作・試行販売、ラベンダーの摘み取り体験会を実施した。
- ②自転車利用による新たな都市農村交流の推進  
地域外の活動主体と連携して「秋色サイクリング」を実施することにより、東京や遠州エリア（静岡県西部地域）からの来訪促進、動画サイトでの発信ができた。
- ③情報発信力のアップ  
現在、売木村の山里遊び・山里暮らしの魅力発信と観光交流を促す「(仮称)うるぎ山里遊びパスポート」（情報誌）を作成中。
  - 住民発意による資源活用の新たな商品づくりに取り組むことができた。
  - 地域の価値を見直し、自信と誇りをもって地域外にその魅力を発信することができた。
  - 役場において、電動アシスト自転車の利用が始まった。
  - 近隣市町村（中山間地域、過疎地域）における地域づくりへの波及効果があった。電動アシスト自転車の貸し出し（天龍村）、地域活性化支援活動（阿南町和合地区）につながった。



天日干し野菜の試食会



電動アシスト自転車試乗会・山里サイクリング



ラベンダー摘み取り体験



売木村PR活動（ふる里カレンダー等配布）

## ● 今後の課題及び展望

### ・課題

- ①地域づくりを担う人材の発掘、地域資源を「守り・育み・伝える」人材の育成  
※地域づくり・村の活性化について語り合う“場”づくり、若者の地域づくりへの参加機会の創出、売木村の歴史・文化などを学ぶ「地元学」の実践など
- ②村内の人材・活動主体の連携強化や都市農村交流事業推進の運営体制づくり
- ③情報発信状況の分析・評価、情報発信ツールの検討などによる情報発信力のアップ
- ④地域外部の人材・活動主体との「地域づくりネットワーク形成」に向けた具体的な取り組み

### ・展望

本事業における地域づくりの活動を持続的な活動に定着させて、地域の活性化を図っていくためには、担い手の育成と組織化、活動資金の確保と次代につながる事業運営が必要である。今後つながりのできた人材・活動主体との情報交換や山里体験などの交流を続けて、「地域づくりネットワーク形成」に向けた連携の仕組みを検討していくこととする。また、活動資金確保のためには、収益を生み出すコミュニティビジネスの展開も必要となることから、今後も情報交換・意見交換を行い、役割分担をして付加価値のある商品づくり、情報誌活用や交流イベント開催などによる村のPR・都市部での販路開拓等に取り組む。

さらに、県境を越えた経済界・行政・住民の協議により策定された広域連携ビジョン：「三遠南信（さんえんなんしん：愛知県の三河、静岡県の遠州、長野県の南信州）地域連携ビジョン」（平成19年策定）のプロジェクト実践に向けて、売木村の取組みを活かし、地域連携活動に積極的に参加していくこととする。